CENTRAL
セントラルグループ for life

せんとらるライナー

51号

2017年 5・6月号
…奇数月1日発行…
セントラルグループ
〒509-7201 恵那市大井町1202-4
【TEL】0573-26-4114
【mail】info@central1961.com

介護の現場から

LifeCare 丸Kanekuコーポレーション

『福祉用具レンタルカタログVol・5』が出来上がりました！！

福祉用具貸与事業で皆様にお世話になっております Kanekuコーポレーションもこの事業を始めて今年で12年目を迎えることが出来ました。

この度、新たなメーカーや取扱い機種を大幅に広げ、レンタルカタログをVol．5としてリニューアルを致しました。

リニューアルに伴い、最新商品の掲載をさせて頂いております。

特殊寝台からは、超低床介護用ベッドの『楽匠　Ｆｅｅｚ（フィーズ）』、『Ｒａｆｉｏ（ラフィオ）』、『フロアベッド』を加え掲載しております。

歩行器は、家の中で安定して歩く為のものから、酸素療法したまま外出出来るものや、買い物かごを置けるもの、トレイ付のものなど、ご利用者様の用途に合わせてお選び頂ける様、さまざまなタイプの商品を掲載しております。

床ずれ防止用具、車いす、移動用リフトについては前回カタログより掲載点数を大幅に増やしており、より利用者様のご要望に応えさせて頂きたいと思います。

また、前回のカタログ同様購入品も掲載し、今回のカタログでは新たに杖を追加いたしました。杖の形状、柄のバリエーションも豊富に取り揃えております。一部商品につきましては実際に現物を確認して頂くことが出来ますので、お気軽にご相談下さい。

他にもご紹介させて頂きたい商品がまだまだたくさんございますので、ぜひリニューアルしたカタログをご確認、ご利用いただけましたらうれしく思います。

また、カタログに掲載しきれなかった商品も多数取り扱っております。どうぞ弊社の福祉用具専門相談員にお気軽にお問合せ下さい。

今後も皆様の声をお聞きし、よりよいカタログを作成していくと共に、一層皆様のご要望にお応え出来る様精進していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

新規事業紹介

自然薯栽培にチャレンジ！

セントラルグループでは、この4月から自然薯栽培への取り組みを始めました。しかし、なぜ建設会社が自然薯を栽培するのかと不思議に思われるのではないでしょうか？

きっかけは、ひょんなことから生まれました。それは、当紙49号の「食堂車」でご紹介した「中山道水戸屋」さんを取材させて頂いた時のことでした。水戸屋さんは、自然薯をご自分のお店で提供するばかりでなく栽培から卸し、贈答品販売等など、手広く手掛けられています。話をお聞きすると社長である上田さんが手作業で栽培しており、手が回らない程の盛況ぶり。栽培のピークは4月から6月。

それは、建設会社が一番ヒマな時。その私どもは、重機の運転はお手の物。機械化できる。上田社長に指導して貰えれば生産性は劇的に向上すること間違いなし。双方にとってウィン・ウィン。こうして、話はトントン拍子に進みました。

初年度は、自社所有の遊休地でマックス5千本の栽培に挑戦します。幸い水戸屋さんと言う心強いパートナーのお陰で販路の心配はありません。今年上手く栽培出来たら、来年は一気に増産をと考えています。その来年は、弊社の祖であるカネ九が創業された明治元年から数え丁度150年目を迎えます。

未来のセントラルグループに向かっての新たなチャレンジが始まりました。

中京学院大学付属中京高等学校
（H29.4.1 中京高等学校より校名変更）

テニスコート整備工事　竣工！

全国大会優勝経験もある、学校法人安達学園・中京学院大学付属中京高等学校ソフトテニス部。

今から8年前の平成21年。その全国トップレベルの選手たちが練習に励むテニスコート2面を施工させて頂いたのに続いて、今回、その隣に面するコートの整備工事を拝命し、無事完成となりました。こうしたレベルの高い学校、選手から認められ、再度ご用命頂けたことは、弊社にとって大変名誉なことと喜んでおります。

この度の工事は、雨天時にもプレーができるようクレーコートから砂入り人工芝へ改修するという内容で、天候に左右されない全天候（オールウェザー）コート化を図りました。この新たなコートで練習を重ねた選手が、今後インターハイ、国体をはじめとするひのき舞台で大いに活躍してくれることを望んでやみません。

セントラル建設では、テニスコートに限らず各種スポーツ施設の設計から施工までを手掛けております。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

建築 News

中津川Ｆ様邸
改修工事　竣工！

昨年の秋、以前にもリフォーム工事を施工させて頂いたＦ様からご連絡を頂戴しました。「今回キッチンを新しくしたい。結婚10年目のプレゼントだから家内の希望を聞いて叶えてほしい」というお話でした。

そこで奥様のご要望をお聞きし、可児にあるタカラスタンダードのショールームへも何回か足を運び打合せを重ねてきました。奥様のご要望は飽きの来ないデザインで、キッチン廻りにはタイルを使用したいというものでした。最近は手入れのしやすいキッチンパネルを施工させて頂くことが多いのですが、タイルのサンプルも何点か取り寄せ納得のいくものをお選び頂きました。またキッチンの手元灯も、奥様のセンスが光るペンダント式の器具を採用させてもらいました。

前回のリフォームから7年。（前回のリフォームはせんとらるライナー6号にご紹介させて頂いております）こうしてリピーターとなって頂けたことは本当にありがたいことであると思います。これからも地域の安全で快適な生活基盤を創造する担い手として、確実な施工はもちろんのこと、家づくりに関する様々なアドバイスをさせて頂きます。

今後とも変わらぬご愛顧を頂きますよう、よろしくお願い致します。

企業理念

社是
企業は人なり
人は姿勢なり
姿勢は心なり

社訓
一、人・姿勢・心の基本は
挨拶にあると知れ
一、礼儀を正し、
前向きで素直たれ
一、信用を第一とし、
知恵と工夫と努力で
利益を追求せよ
一、反省し改善し進化せよ

綱領
我々、セントラルグループ全社員は、
企業理念の根幹たる
人・姿勢・心を研き、
社業の繁栄を築き、
地域の安全で快適な生活基盤を
創造する担い手として、
社会に貢献することを使命とする。

企業理念の意味するところ

わが社の思想、進むべき方向性。
そして、当社において「正しい考え方」とは何であるのか。
それらを簡潔に要約したのが、右の企業理念です。我々セントラルグループ全社員は、この企業理念に価値観を共有し結束し、地域の安全で快適な生活基盤を創造する担い手と成るべく進化を続けて行く所存です。

読書尚友

～読書をして昔の賢人を友にすること～

古典60選 …グループ代表 阿部伸一郎…

51／60

『サロメ』 オスカー・ワイルド 1854～1900

オスカー・ワイルド

浮世離れした言動にファッション。そして、男色。文学者には奇人が少なくないが、オスカー・ワイルドの右に出る者は、まずいないであろう。

彼は、1854年、ヴィクトリア朝時代にアイルランドのダブリンで生まれた。父はサーの称号を持つ外科医、母は詩人であり、アイルランド独立の中心的存在と言う女傑だった。ただ、彼女は普通ではなかった。オスカー出産の際に男児であったことに落胆し、彼に女装させ女の子として育てたと言う変わり者だった。

幼少の頃から頭脳は、ピカ一。ダブリンの田舎では飽き足らずオックスフォード大に進学。在学中に発表した詩は、高く評価され大学の最高賞を受け、その名声は奇抜な言動と相まってロンドンにまで及んだ。その後、突然退学を申し出る。しかし、大学もそんな逸材に辞められたら立場がないと留意。結局、授業には出ずに独学で学び、首席で卒業したと言う秀才だ。

オスカーが求めたものは、「美に最高の価値を置き、美しさの追及こそが人生の目的」と言う唯美（ゆいび）主義と言われるもの。これを短い文章で表現するのは易しくないが、谷崎潤一郎や三島由紀夫が、その類だと聞けば何となくピンと来るのではなかろうか。

彼ら唯美主義者にとって、生きる全ては煌びやかでなければならない。それは文学に限ったことではない。服装然り、話し方然り、行住坐臥全てにおいて一切の妥協は許されない。綺麗にとかれた長い髪にキザなポーズ、そして女装を含め奇抜に着飾る美男子オスカー。当代きっての絵になる変人オスカーは常に風刺の対象とされ、全英の若き有名人となった。

さて、そんなことを頭に置いて、このグロテスクな著を読むと、グロテスクさの中にも、なるほど何とも言えない美を感じる。戯曲『サロメ』は、聖書に由来する。よほど聖書に詳しいなら別だが、いきなり読んでも理解が進まない。自信がなかったら予め登場人物とあらすじを頭に入れてから読むのも悪くはない。私は、いつもそうする。

主人公のサロメを含め、主たる登場人物は4人。先ずは残酷なユダヤのエロド王、聖書に登場する名はヘロデ・アンティパスだ。彼は、前王の兄を殺め王妃であったエロディアス（ヘロディアス）を娶った。前王とエロディアスの16歳の娘が絶世の美女サロメ。そして、最後の一人は、エロド王とエロディアスの結婚を非難し宮殿の地下牢に幽閉されているヨナカーン（ヨハネ）だ。彼は、あのイエスの洗礼者、ヨハネだ。

舞台は、エロド王の宮殿。酒に酔った王はサロメに踊れと命じる。しかし、彼女は踊らない。踊ればどんな望みも適えるとの約束でサロメはついに踊る。踊り終わったサロメはヨナカーンを斬首し銀の大皿に首を乗せ持ってくるように求めた。王は祟りを恐れ拒絶するが、約束だとサロメは一歩も引かない。仕方なく、王が約束を果たすと、サロメはヨナカーンに口づけをした。その不気味さに恐怖を覚えた王は、兵士にサロメを殺せと命じる、と言う何とも恐ろしい話だ。

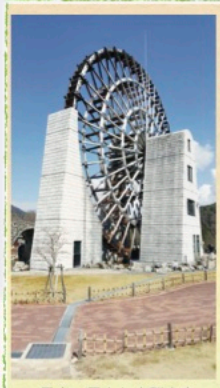
こんな奇々怪々なストーリーゆえに好き嫌いが分かれよう。だが、美しさがある。何とも衝撃的だが、やっぱり美しい。読了後は、強いグラッパをキュッと飲み干した時の様なふらふらした余韻が残る。だが、それが、たまらない。私は、好きだ。

せんとらるライナーで旅する恵那 vol.3

道の駅おばあちゃん市・山岡

～日本一の木製水車と三連石造りめがね橋～

（山岡町）

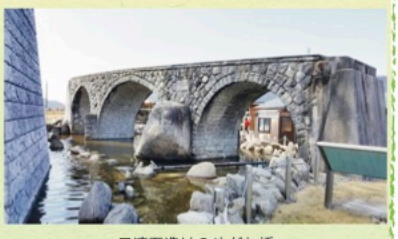


日本一巨大な木製水車

山岡町の県道33号線を走っていると小里川ダム沿いに巨大な水車が目に飛び込んでくる。ここは、直径24mの日本一の木製水車がシンボルの「道の駅おばあちゃん市・山岡」だ。

山岡町では、明治から大正にかけて陶石を細かく砕くのに水車が使われていたと言う。特にダム工事によって水没した地域には多くの水車が存在していたことから、ダムの完成を機に産業遺産のシンボルとしてこの水車が作られた。また、この水車の下には大正時代に、この地に架けられた三連になった石造りのめがね橋が展示されている。一見の価値ありだ。

山岡産のお米や加工品。そして、地元で採れた新鮮な野菜がお手頃な値段で販売されている産直品売り場も賑わう。ドライブの途中にちょっとだけ回り道して立ち寄ってもらいたい。

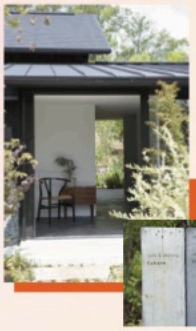


三連石造りのめがね橋

せんとらるライナー食堂車

cafe & gallery Cabane

restaurant Digue



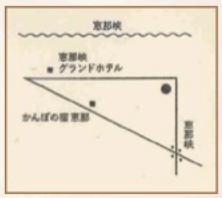
2016年春、恵那峡に「café＆gallery　Cabane（カバノ）」と「restaurant　Digue（ディグ）」がオープンした。

この二つのお店は、同じ建物内にある。入り口は一つ。シェフもスタッフも同じだが、ダイニングだけは別々になっている。どちらのお店も飲み物以外のメニューはない。毎日それぞれのお任せ料理があるのみ。この二つのお店は何が違うかというと、カバノはカフェとランチで予約なしでも空席があれば入れるが、ディグは、ランチもディナーも完全な予約制。勿論料理も違う。

このお店がオープンして丁度一年が経つ。予約が困難な程の繁盛ぶりだが、恵那峡に毎日行っていても、お店の存在を知らない人が多い。なぜなら、表通りからは見えない。「敢えて、目立たない場所を選んだ」とユニークな発想で語るのは、店主でシェフの小椋さん。

小椋さんは、東京とフランスで16年間修業を積んだ。フランスには3年間滞在し、各地の一つ星から三つ星のレストランで腕を磨いた。

双方のお店とも、函館から直送されてくる旬の魚介類と地元の肉や野菜を食材に使い、冷凍のものは一切使わない。その日、その日の入荷する食材によって、ちがった料理が提供される。そして小椋さんの一番のこだわりは「一から十まで全てを自分で作る」こと。デザートのアイスクリームもパイ生地も、全部小椋さんの手作り。「お客さんには見えてない部分かもしれないが、満足して頂くためにこだわりたい」。それが、このお店のコンセプトとなっている。



★café&gallery Cabane

定　休　日　月曜日

営 業 時 間　10：00~17：30

価格（税抜）　ランチ　1,800円

★restaurant Digue

定　休　日　月曜日

営 業 時 間　12：00~14：00／17：30~19：00

価格（税抜）　ランチ　6,500円／ディナー　8,000円~

※昼・夜ともに完全予約制。3日前までに要予約

Cabane／Digue

〒509-7201

恵那市大井町2709-521

TEL　0573-22-9912

せんとらるライナー乗務員室

Kaneku コーポレーション

原山　義基（よしもと）

小学生時代から野球少年だった。ポジションはずっとキャッチャーで大学まで続けた。野球に限らず身体を動かすのは大好き。大学では、保健医療関係者と連携し安全で効果的な運動プログラムを作成する健康運動実践指導士の勉強をした。

卒業後は、介護の道に進む。愛知県の施設で5年間勤めた後、kanekuに来て2年。仕事の苦労話を聞くと、人それぞれの身体状況に最適な福祉用具を選定する時には凄く神経を使う。心掛けているのは、言葉づかいや接し方に細心の注意を払うこと、と言う。毎日、ひたむきに必至に仕事に取り組む。

最近は、野球よりサッカーに興味を抱く。特にイタリア、セリエAの試合を見るのが楽しみ。インテルのファンだそうだ。

- 平成2年生まれ
- 社　歴：2年
- 趣　味：サッカーTV観戦
- 好きな食べ物：酢の物
- 出身地：長野県飯田市

せんとらるライナー待合室

たった1球で解決

卓球部が部屋の片づけをしていた。使っていない球をダンボール箱に詰めたところ、白球だけ入っている箱が1つ、オレンジ球だけ入っている箱が1つ、両方入っている箱が1つになった。

ガムテープでフタを閉めて、中身がわかるようにそれぞれの箱に「白球」「オレンジ球」「両方」と書いた紙を貼りつけた。

そこに意地悪なサッカー部がやってきて、貼ってある紙と箱の中身が一致しないようにコッソリ紙を貼りかえてしまった。

全ての紙が貼りかえられていることに気がついた卓球部のキャプテンは1箱だけほんの少し開け、隙間から手を突っ込んで球を1つ取り出すとすぐに箱の中に戻した。

他の2箱については何も確認しなかった。つまり確認したのは1箱の中にあるたった1つの球の色だけである。それでもキャプテンは正しく紙を貼り直すことができた。

キャプテンはどの紙が貼られた箱の球を確認したのだろうか？

【50号のこたえ】

「誕生日」は12月31日で「今日」は1月1日

一昨日	12月30日	13歳
昨日	12月31日	14歳（誕生日）
今日	1月 1日	14歳
今年の	12月31日	15歳（誕生日）
来年の	12月31日	16歳（誕生日）